

朝の十五分間

田 淵 伶 愛 菜

お兄ちゃんが、大きな病気を発症している事がわかって、突然入院しました。

お兄ちゃんには会えなくなり、お母さんは病院に泊まるようになり、私は、おばあちゃんとくらすようになりました。家族がバラバラになって、生活も変わってしまいました。

おばあちゃんは、とても優しくしてくれたけど、私はさびしくてたまりませんでした。

でも、お母さんに全然会えないわけではなくて、お母さんは毎朝、私が学校に行く前に帰ってきてくれて、私の髪の毛を結んでくれました。結びながらお話して、行く時はギュウっと抱きしめてくれました。

わずか十五分。あつという間です。お兄ちゃんの状態が悪い時は、帰ってこられない時もありました。

友達が、家族といるのを見るたび、うらやましくなって、悲しくなりました。

ある日、そんな思いがつのって、お母さんに「お兄ちゃんばっかり！ 私の事なんか、どうでもええんやろ！」と言ってしまいました。

（本当は、こんな事を言いたいんじゃないのに、困らせるだけなのに、どうしよう、どうしよう、ごめんさい、ごめんさい。）心の中ではこう思うのに、ひどい言葉が出て、頭の中がグチャグチャになりました。

お母さんは私を抱きしめながら「さびしい思いをさせてこ

めんね。伶愛菜の気持ち、話してくれてありがとう。伶愛菜の事を思わない日は無いし、大切な存在だよ。朝帰ってからの時間は、伶愛菜とお母さんだけの時間だからね。」と言いました。

後でおばあちゃんから、お母さんが毎朝、私に会うために渋滞の中帰ってきている事や、一晩中お兄ちゃんの看病をしていて、ねてなくても帰ってきてくれている事を聞きました。

（辛いのは私だけじゃない！ みんな頑張っているんだから、私も頑張らなくちゃ！）こう考えて、お母さんに「毎朝帰ってこなくていいよ？ 大変やろ？ 私、強うなるけん！ かけるよ？」と言いました。

するとお母さんは「伶愛菜の、やわらかくてフワフワの髪の毛結ぶといやされるし、車の中で今朝はどんな髪型にしようかな？ どんなお話しようかな？ って考えてると楽しくって！ 伶愛菜の可愛い顔を見て、ギュウつてしたら、一日ハッピーでいられるよ！ お母さんにも必要な大切な時間なの。」と言いました。

私の目から、温かい涙がいっぱいあふれ出てきました。私はすごく愛されていたんだね！ 私の事を、私との時間を、大切に思ってくれてたんだ！ たった十五分、だけど愛情たっぷり幸せな十五分間。

この朝の時間は、お兄ちゃんが病気を治して、元の生活にもどった今も続いています。

お母さん大好き！ いつもいつも、ほんとうにありがとう！